



チョウジザクラ



ニリンソウ



幾代会 植物観察会

2022/4/10 (日)

大丹波“春の野草を求めて”

今回は下記の個体を観察します

モクレン、キブシ、フサザクラ、エイザンスマレ
タチツボスマレ、ユリワサビ、ヨゴレネコノメ
ヤマネコノメ、ハナネコノメ、レンギョウ
ミツバツツジ、ミヤマカタバミ アブラチャン



カツラ



熊沢林道



輪光院の裏山から



青木神社



都道202号

幾代会観察会(2022年4月)のまとめ

◆日時 2022.4.10(日)

◆散策場所 大丹波

◆ポイント 春の野草を求めて

◆散策ルート 川井駅～熊沢林道～大丹波国際ます釣場～輪光院～青木神社～都道2

02～斎藤宅～川井駅

◆参加者 太田さん、武藤さん、浅井さん、石川さん、岡さん、宇津木さん、中部さん
と越前の8名、下見3月31日 5名

◆感想

帰りの川井駅で参加者7名から聞いた感想。

フイリゲンジスミレが良かった。ミツバ躑躅やレンギョウが綺麗だった。

道路端で色々な種類のスミレが見られて驚いた。

ツガの巨樹とその松ぼっくりが良かった。

青木神社手前のシャクナゲが綺麗だった。

エイザンスミレが良かった。

ムラサキハナナの話を初めて知って良かった。

こんな素晴らしい場所が有るとは知らなかった。



仲間からの感想はバラエティに飛び、
それぞれ楽しんで貰えて良かったです。

そして私は10日前の下見と本番で、
これほどまでに花の様子が違い驚きました。

◆4月の植物観察会のポイント2点

●ホトケノザ、シソ科

別名は葉の付き方から三階草とも言
われる。

フリルの付いたよだれ掛けのような
丸い葉を段々に付ける。

開花する花と開花しない閉鎖花が有
り、閉鎖花は自家受粉をして子孫を残
す。

受粉の仕組みについて。

ハチは模様の有る下唇をめがけて飛んで来る。

広い下唇はハチの着陸場所になり、上唇は花の奥に有る線がガイドラインとなってハチを内部へ導く。

花の中ほどは細く成り上唇にある雄蕊が下がって、ハチの背中に花粉が付き、他の仮の座に飛んで行って受粉される。

ちなみに春の七草、セリ、ナズナ、ゴギョウ（ハハコグサ）、ハコベラ（ハコベ）、ホトケノザ（コオニタビラコ）、スズナ（カブ）、スズシロ（ダイコン）のホトケノザはコオニタビラコのことで本種では有りませんが、シソ科なので間違って食べても毒には成りません。

ところでホトケノザの花の一個を上から見るとエビフライの形にそっくりとの記述がありましたが、見えますか？



●スミレ、スミレ科

下の花びらにある筋のような模様は虫に蜜のありかを教える目印でハニーガイド（蜜腺）と言われる。

花の後ろ側の袋の中に蜜が入っていて、くちばしの長い虫が他の虫に邪魔をされずに蜜を吸える。

スミレの花ばかりを選んで飛びまわり花から花へと花粉が運ばれ受粉される。

受粉されると雌蕊の根元が膨らみやがて

実に成る。

スミレの種が地面に落ちると種についている白いもの（エライオソーム）を求めてアリがやってくる。

白いところはゼリーのように柔らかくアリたちのご馳走。

アリは巣に持ちかえり仲間と一緒に白いところを食べて種は巣の外に捨てられる。このようにスミレの仲間はアリに美味しいご飯を用意し種を遠くに運んでもらう。スミレが虫を引き付ける仕組みと種を遠くに運んで貯う仕組みでした。

◆散策路の植物あれこれ

4月とは思えないような暖かい晴天の元、幾代会の7名がニコニコと川井駅に下車。

プラットホームで朝のご挨拶をし、大丹波川の左岸を上流に向かって歩きました。まず崖の上から黄色い明るいヤマブキの花が弧を描いて垂れ下がる。

あらまあ～～もう、セリバヒエンソウの花。柔らかな緑の絨毯の上を燕が飛び回っているように見えました。

舗装された熊沢林道の道沿いには、良く見かけるタチツボスミレの他にポイントで写真を載せたフイリゲンジスミレ、ピンクの花が可愛いヒナスミレ、葉の切れ込みで分かり易いエイザンスミレ、他にもナガバノスミレサイシン等の多く



のスミレを観察。

足元ではじっと見ないと通り過ぎてしまいそうな小さな野草が、体いっぱいいで嬉しい春を謳歌していました。

左側には大丹波川の深い谷を臨み、車が通らない林道を2Kも進んで、咲き残ったチョウジウジザクラを観察。

大丹波国際ます釣場の脇では1cにも満たない小さな東国鰯の尾の出迎え。

輪光院の裏山では植栽された色鮮やかな薄紫色のミツバツツジが満開。

お寺さんの軒先を借りて途中から参加の武藤さんも一緒に嬉しいお昼ご飯。



昼食時には幾代会から連絡を少々と西洋タンポポの知恵を紹介。
ミツバツツジが咲き乱れる散策路を登ってツガの巨樹を堪能。
本日一番の難所を登った頂上で拾った小さな松ぼっくりはツガがマツ科の証。
奥多摩の山をバックに大丹波の里が手に取るように眺められ、ヤッホーです。
シャクナゲが咲く青木神社で小休止し、神社の前でニヨキニヨキと顔をのぞか
せている蕨を童心に返り夢中で収穫。
嬉しい里のお土産がゲット出来ました。
獅子口屋の近くでは在来種で黄色い花を付けるイヌナズナの群生と名前も姿も
可愛いい植栽された満開のペチコートスイセンを観察。



更に都
道202号
を川井
駅に向
かって歩
を進めると
道路際
に淡い黄
緑色の新葉
を展開し
始めたカツ
ラの巨樹。
どのように成長したのかな~~1本かな~~と、あれやこれやと皆で

問答。

見る部分がソレゾレで面白いです。

川井駅の手前の Y 字路を右折し宇津木さんの友人、斎藤さん宅へ楽しみなお庭拝見に伺いました。

珍しい白の清楚なミツバツツジが玄関先でお出迎え！



プランターにはヒゴスミレとヤマシャクヤクの幼苗が仲良く共生。

珍しいタマノカンアオイの花が丁度見られてラッキー。

何といっても羅生門葛が庭中を所狭しと、はい回っていたのには驚き。

由来は花の形を京の羅生門で渡辺綱（わたなべのつな）という武将が切り落とした、鬼女の腕に見立てて付けられたと、チョット恐ろしいのですが、シソ科の花としてはブルーの花が大きく目立って綺麗です。

川越の自宅ではどうしても育たないので大丹波の別宅では全ての野草が元気に育っていると斎藤さん。

きっと奥多摩の水と空気と土とそして何よりも人情が気に入ったのですね。

可憐な野草が何時までも元気に育ってください。

親切に見せて戴き有難うございました。お陰様で良い思い出に成りました。

10日前の下見ではクスノキ科で黄色い花を付けていたアブラチャンとバラ科のフサザクラが見事でしたが、本番ではすっかり姿を消し、大丹波の集落はブルーの花に染まっていました。

春の歩みは駆け足で通りすぎ季節は着実にバトンタッチされて行きます。

さて、来月の観察会は第一日曜の 1 日、青梅の大塚山にキンランを求めますので、参加をお願いします。

2022. 4. 14 越前記